

2023 年度
北海道医療大学 先端研究推進センター
当事者研究分野 事業計画書

No.	タイトル	事業期間・内容	予算
1	<p style="text-align: center;">【シンポジウム】</p> 北東アジア国際シンポジウム 精神保健医療福祉分野におけるオープンダイアログの可能性	<p>韓国、障害友障害友権益問題研究所精神障害者社会統合研究センター (RIDRIK)との国際シンポジウムの合同開催</p> <p>目的： 2023 年 2 月韓国の障害友権益問題研究所精神障害者社会統合研究センターと本学の先端研究推進センターの間で協定を結び、同月に「精神障害者のための社会的農業の活性化を考える国際会議」を本学で実施した。今回開催予定のシンポジウムでは日韓の精神保健医療福祉の実践現場で医療モデルの代替的プログラムとして注目を集めている対話実践、特にオープンダイアログについて両国での実践状況や課題について報告をし、更には昨年度の国際調査で関係を構築したモンゴルの精神保健福祉医療分野の関係者と協力し、お互いの現場に活かせるための研修（日本でオープンダイアログを現場に取り入れている実践者からの実践報告）も取り入れる予定である。</p> <p>日程の詳細は 2023 年 9 月頃、3 日間で開催。 開催地を選定中。 このシンポジウム開催のために伊藤医薬財団の「海外等研究者招聘助成」を申請中 300,000 万 この予算は主に韓国の RIDRIK のセンター長の講演料、宿泊費等の経費として申請。</p>	40 万 内訳： 座長 2 万円 基調講演講師 3 万円 シンポジスト 2 万×5 名 会場費設備費：80,000 通訳料：10000×○時間×3 日分
2	<p style="text-align: center;">【研究&シンポジウム】</p> 札幌刑務所における精神障害受刑者処遇モデル事業 スタートにおける調査研究およびシンポジウムの開催	<p>詳細は研究計画書「2023 年応募様式 当事者研究分野 ①札幌刑務所モデル事業」をご参照ください。</p>	30 万

3	<p>【研究】 当事者研究ファシリテーターを養成するプログラムのガイドライン作成 ～ワーカーズコープでのインタビュー調査をもとに～</p>	<p>詳細は研究計画書「2023 応募様式 当事者研究分野② 協同労働」をご参照ください。</p>	30万
4	<p>【研究】 当事者研究による認知フィーリングの現象論的解析（2021年10月～2027年3月）</p>	<p>東京大学先端研との協同研究で、認知フィーリングの観点によるリカバリー概念のモデル化と評価尺度開発をめざす。当事者研究の仮説的枠組み(下表; 熊谷, 2014; 2015; 2020)である知覚・認知・知識・記憶の真理値を「真」に維持する機構が脳神経系に備わっており、その機構の破綻として多様な精神的不調を記述できる認知フィーリングは同機構の作動に伴う主観的な“感じ”当事者が、自らのもつ知識を、真理条件を満たすものへと更新すること(研究による真理の発見)がリカバリーをもたらすという仮説を、認知フィーリングの観点による当事者研究効果の検証によって明らかにする。</p>	
5	<p>【研究】 自然災害による人命損失最小化プロジェクト</p>	<p>本プロジェクトは、自然災害時の障害者の情報格差を是正するための情報分野の国際標準規格の創出と普及に努めるもので、特定非営利活動法人支援技術開発機構の河村宏氏等が統括をしている。。河村氏はこれまでも浦河町における精神障害者にもわかりやすい津波避難マニュアルの開発と訓練の支援にも携わっており、障害者の防災レディネスのためのこのプロジェクトではニーズ調査チームとして向谷地生良教授と浦河べてるの家のスタッフや当事者が参加した。これらの経緯から今回のプロジェクトにも協力依頼があり、特に浦河町での障害インクルーシブ防災の実践を活かしこのプロジェクトへ今後協力していく運びとなった。この活動は JICA のとも連携しており、今回のカウンターパートは南米、エクアドル政府を予定している。本プロジェクトは日本医療研究開発機構の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) に助成金申請中である。</p>	<p>日本医療研究開発機構の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) に助成金申請中</p>